

11:55 前時の復習と本時のテーマの提示

授業  
ハイライト

主体的・対話的で  
深い学びへ

実践  
アクティブ・ラーニング

商業



吉田先生は、前時に学習した「企業活動の根底には、経営理念(目標)がある」ことを改めて説明し、本時のテーマ「望ましい組織形態を考える」を提示。組織内で役割分担をする「分業」について説明した後、「みんなも組織に所属しているよね」と問いかけ、生徒会や部活動も企業と同じように、目標を持った分業制の組織であることを意識させた。

●1年生「ビジネス基礎」の「企業活動の基礎」の全9時間のうちの2時間目。組織でビジネスに取り込むメリットを個人・グループで考え、生徒会や部活動など、自分が所属する組織の問題解決策を考えた。(P.37に単元の指導計画を掲載)

答えが1つではない問いを  
自分事化させた上で向き合わせ、  
課題解決力を養う

吉田先生のアクティブ・ラーニング

答えが1つではない問いに直面した  
ことをきっかけに、授業を見直す

富山県立富山商業高校は、生徒への育成を目指す資質・能力を「富商スキル」とし、「愛され、信頼される人間力」「課題解決力」「ビジネスの理解力・実践力」を掲げている。その中の「課題解決力」は、アクティブ・ラーニング(以下、AL)の視点を取り入れた授業で育成を図っている。



富山県立富山商業高校  
吉田 壮志 よしだ・そうし

教職歴13年。同校に赴任して9年目。企画部副部長、流通経済科主任、商業科担当、1学年担任。販売実習「TOMI SHOP」の担当に就いてから、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業づくりに本格的に着手。

### 富山県立富山商業高校

◎1950年、富山県立富山東部高校として独立。「自主協調・明朗誠実・進取敢闘」を校訓として、「富商ブランド」を担う人材を育成する。カリキュラム・デザイン、PDCAサイクル、内外リソースの活用の観点から学校改革を推進。

◎設立 1897(明治30)年

◎形態 全日制/流通経済科・国際経済科・会計科・情報処理科/共学

◎生徒数 1学年約280人

◎2020年度進路実績(現役のみ)

国公立大は、新潟大、富山大に11人が合格。私立大は、駒沢大、中央大、東洋大、日本大、神奈川大、南山大、名城大、同志社大、立命館大、関西大などに延べ73人が合格。短大、専門学校進学70人。就職116人。

◎URL <http://tomisho.el.tym.ed.jp/>

## 12:20 グループワーク



グループワークを行う際の4つのルールを、吉田先生が伝えてから4人1組となり、1人2分間で組織と個人の活動のメリットを発表し合った。「組織的に取り組むと、個々の負担が減る」「集団の方が達成した時の喜びが大きい」などの意見が出され、ほかのメンバーはそれをワークシートに記入。吉田先生は、「『なぜならば』というところまで深めて話そう」と呼びかけた。

## 12:08 個人ワーク



目標達成に向けた望ましい組織形態を考えるために、まずは個人ワークで、「組織」と「個人」で取り組むメリットをそれぞれ2つずつ挙げ、それらをワークシートに記入させた。吉田先生は、机間指導をしながら、「スポーツにはなぜ、ポジションがあるのかな？」といった部活動の例などを提示した。

1年生の必修科目「ビジネス基礎」では、「商業」を構成する「マーケティング」「マネジメント」「会計」「ビジネス情報」の4分野の基礎となる横断的な知識を学ぶ。そして、同科目の学習内容を実践する場として毎年11月に開催しているのが、「TOMI SHOP」だ。それは生徒が模擬株式会社を設立し、仕入れから販売までを行う販売実習で、「課題発見↓解決策の立案↓実行↓評価・改善」のサイクルを回す。

しかし、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、「TOMI SHOP」は中止となった。そこで、同科目の到達目標を「解決策の立案」までとし、単元の最後は「理想の企業」についてグループで考え、発表する活動を行うことにした。吉田壮志先生が、ALの視点を意識し始めたのは、「TOMI SHOP」の担当となったことがきっかけだった。

「販売実習を通じて、生徒は『どうしたらお客様が喜ぶか』といった、答えが1つではない問いに取り組めます。そうした問いを通じて生徒の資質・能力を育成するためには、指導する私自身が、自分なりの答えを見いだせるようになることが必要だと感じました」

例えば、「TOMI SHOP」でのゴミ問題を考える場合、ゴミの量なのか、来場者のマナーなのか、生徒が何に焦点をあてるかによって「紙コップを廃止する」「マナー向上を啓発する」などと解決策が異なってくる。

「こうした問いに挑むために必要な課題解決

力の育成には、例年の状況を調査したり他者と話し合ったりしながら、自身の考えを深めていくような体験的な学びが欠かせません。そこで、授業にALの視点を取り入れることにしました」

### 思考の活性化・深化への配慮

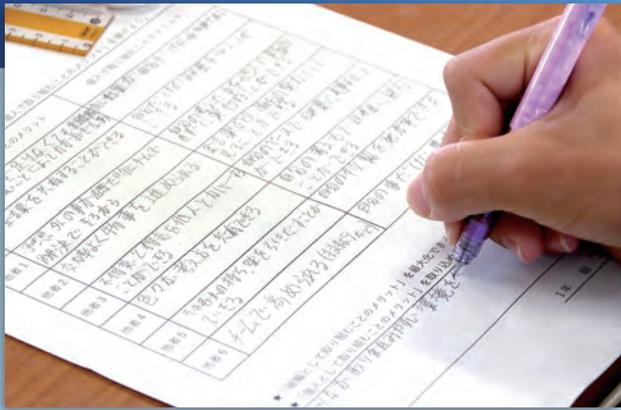
#### 社会課題を自分事として捉えさせ、理想と現実の差に目を向けさせる

思考を深める前提として、吉田先生が重視するのが基礎知識の定着だ。まずは知識を身につけ、次にそれらを活用する活動へと移行することで、思考の深化につながると考えるからだ。今年度の1年生も、1学期は知識の定着を優先し、吉田先生と生徒の1対1の対話の場面を増やして知識の定着を確認した上で、2学期からはグループワークを行った。

そして、生徒の思考を深めるために最も大切にしてるのが、生徒にとって身近な例を示して、課題を自分事化させることだ。本時では、望ましい組織について考える前に、生徒に学校生活で自分が所属する組織を思い起こさせた。

「課題を自分事として捉えられなければ、表面的な意見しか出せず、他者と話し合っても思考は深まりません。理想と現実の差に目を向けさせ、解決すべき問題を浮き彫りにしてこそ、生徒は課題を自分事化することができます」

続いて、個人ワークで個人と組織それぞれで働くメリットについて書かせてから、グループ



本時のまとめとして、「2年生になったら、部活動など、自分が所属する組織をどのようにしたいか」を考えて、ワークシートに記入。「自分ができることを最低1つは書こう」と、吉田先生は呼びかけた。最後に、社員が本音で対話する社風の世界的企業を紹介。「基本的に企業も人間関係の中で動いている。みんなも、できることからやってみよう」と締めくくった。



吉田先生に指名された生徒が、自分のグループの意見をまとめて発表した。発表に対して、吉田先生は「何がよいのかな?」「どうして?」と問いかけた。例えば、「組織的に取り組むと役割分担ができる」と発表した生徒に、「分担すると何がよいのかな?」と質問すると、生徒は少し考えてから「作業が速くなる」と答えた。

ワークを実施した。

また、自分の意見が出せるよう、本時のテーマについて考えが深まる事例は、授業の最後に例示する。以前はそれを最初に示してから、個人・グループワークを行っていたが、生徒の考えが事例の内容に引つ張られることが多かったため、授業のまとめの中で示すようにした。

「まず自分の意見を持ち、それを他者の意見や社会状況と比較することで、類似点や相違点を見いだせるようにしました。本時の最後には、活動を経て深めた思考から、自分が所属する組織をよりよくする方法をまとめさせました。答えが複数ある問いに挑む活動を繰り返し経験することで、情報を論理的に整理し、自分の意見を客観的に捉える力が身につくことを期待しています」

#### 場づくりへの配慮

### 4つのルールを設定・徹底することで、発言しやすい安心・安全の場に

グループワークでは、生徒が安心して自分の意見を述べ、他者の意見を傾聴できるよう、「(相手の話を)最後まで聴く」「(相手の意見を)否定しない」「(相手の意見を)受け入れる」「(相手に)伝わるように話す」の4つのルールを話し合いの前に必ず伝え、生徒に徹底させている。

また、グループワークは基本的に4人1組で行う。それより人数が少ないと意見が偏り、多量と議論に参加しない生徒が出てきやすいから

だ。さらに、1年生では、グループのメンバーは単元を通じて固定にしている。

「1年生はまだグループワークに慣れていないため、1つの単元が終わるまではグループワークのメンバーは変えませんが、2年生以降は授業ごとにメンバーを変え、多様な意見や発想に触れられるようにしています」

#### 成果と課題

### 膨大な情報に流されず、自分の意見を持てるように

課題解決型の授業を繰り返すうちに、生徒は自分の意見を述べられるようになり、他者の意見を受け入れる態度を身につけていく。また、部活動における自身の問題を踏まえて、その解決のための練習内容を計画し、実行に移す生徒も少なくなっていく。

「様々な問題を自分事として捉え、どうすればそれを解決することができるのかを主体的に考えて行動するようになっていきます」

今後の課題は、生徒が情報に流されずに自分の意見を持てるようにすることだ。

「インターネットやSNSなどが普及し、生徒が受け取る情報量は格段に増えました。知識や経験が少ない生徒は、聞いた情報をそのまま信じる傾向があります。生徒が情報の真偽やその質を見極めながら、自分の意見を持てるような授業を追究していきます」

## 単元の指導計画

【教科・科目】商業・ビジネス基礎 【分野・単元】企業活動の基礎 【テーマ・作品】理想の企業像と働き方 【設定時数】全9時間の中の2時間目 【単元目標】事例や議論を通じて、自身の生き方やあり方について考える。

時数	学習内容	身につけさせたい 資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>「企業の役割」について考える。</li> <li>企業の根底にある「経営理念」について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業が行う活動を整理し、把握することができる。</li> <li>企業の役割について、「誰のため」「何のため」「なぜ」の3つに分けて考えることができる。</li> <li>グループ内の他者の意見を聞き入れることができる。</li> </ul> <p>【知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性】</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>身近な企業を挙げながら、「誰に対して」「どのようなことをしているか」をまとめる。</li> <li>企業の役割について、「誰のため」「何のため」「なぜ」の3つに分けて個人の意見を出す。</li> <li>4人グループで、意見を述べ合い、他者の意見を知る。</li> <li>経営理念が根底にあることを理解する。</li> </ol>	<p>【主体的な学び】・身近な事例を使うことで、自分事として課題に取り組むことができるようにする。・ワークシートを使用し、思考を見える化できるようにする。【対話的な学び】・「話し手のルール」「聞き手のルール」を設定し、生徒が自分の意見を安心して発表できる環境をつくる。【深い学び】・机間指導をしながら、個人に質問して、より具体的に深めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> <li>グループ内発表</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>「組織で取り組むことのメリット」について考える。</li> <li>「よい組織」のあり方について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人で取り組むことと組織で取り組むことのメリットについて、意見を出すことができる。</li> <li>グループ内の他者の意見を聞き入れることができる。</li> <li>事例を通じて、「よい組織」のあり方について考えることができる。</li> </ul> <p>【知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性】</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>「目標達成」を目指す際の「個人で取り組むことのメリット」と「組織で取り組むことのメリット」が何か、個人の意見を出す。</li> <li>4人グループで、意見を述べ合い、他者の意見を知る。</li> <li>「組織で取り組むことのメリット」の代表が「分業」であると知る。</li> <li>事例を通じて、「よい組織」のあり方について考える。</li> </ol>	<p>【主体的な学び】・部活動などを例にすることで、個人や組織についてイメージを持ちやすくする。・ワークシートを使用し、思考を見える化できるようにする。【対話的な学び】・「話し手のルール」「聞き手のルール」を設定し、生徒が自分の意見を安心して発表できる環境をつくる。【深い学び】・机間指導をしながら、個人に質問して、より具体的に深めていく。</p>	
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>理想の企業について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習を踏まえ、自身が働く上で重要視することを考える。</li> <li>働くことが楽しみとなるような企業について考える。</li> <li>グループ内の他者の意見を聞き入れることができる。</li> <li>グループの意見をまとめ、発表資料を作成する。</li> </ul> <p>【知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性】</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習を振り返り、自身が働く上で重要視することについて、個人の意見を出す。</li> <li>働くことが楽しみとなるような企業について、個人の意見を出す。</li> <li>4人グループで、意見を述べ合い、他者の意見を知る。</li> <li>4人グループで、理想の企業についてまとめる。</li> <li>発表資料を作成し、発表の準備を行う。</li> </ol>	<p>【主体的な学び】・生徒自身の将来像を考えさせることで、自分の課題として意識できるようにする。・ワークシートを使用し、思考を見える化できるようにする。【対話的な学び】・「話し手のルール」「聞き手のルール」を設定し、生徒が自分の意見を安心して発表できる環境をつくる。【深い学び】・机間指導をしながら、個人に質問して、より具体的に深めていく。・KJ法などを利用し、意見を分類し、深めやすくする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> <li>グループ内発表</li> <li>発表資料</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>理想の企業について発表する。</li> <li>多様な考え方のなかにある共通項を捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理想の企業について、効果的に発表することができる。</li> <li>多様な考え方のなかから、共通する項目を見いだすことができる。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性】</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>各グループ3分間で、全体発表をする。</li> <li>発表で気づいたことや、自分のグループで出なかった意見をワークシートに記入する。</li> <li>共通する言葉などから、根底にある土台となる考えを捉える。</li> </ol>	<p>【主体的な学び】・発表の評価を随時行うことで、発表に対する意欲が向上するようにする。【対話的な学び】・「話し手のルール」「聞き手のルール」を設定し、生徒が発表を安心してできる環境をつくる。【深い学び】・発表内容の要点などを板書し、生徒がより他者の意見を理解しやすくする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体発表</li> <li>発表資料</li> </ul>

\* 吉田先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。単元の指導計画の全9時間分は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<https://berd.benesse.jp>) からダウンロードできます。「HOME→教育情報→高校向け」をご覧ください。

### 同僚の声



安田 隆 教頭

安田 グループワークの際、「なぜ?」「どういうこと?」と問いかけてクリティカル・シンキングを促していたことは、生徒の考えの明確化や具体化につながっていました。例えば、「個人の方が楽」とつぶやいた生徒に、「なぜ、楽なの?」と質問すると、「思い通りにできるから」と明確な理由が出てきたり、「よい組織をつくるために、雰囲気をよくする」と発言した生徒に、「どうやって?」と聞き返すと、「笑顔を増やす」と具体的な方法が出てきたりしていました。また、生徒の発言を構造的に板書するなど、ロジカル・シンキングを高める工夫も見られました。

吉田 発言を具体化させることで、相手に伝わる発信力が身につくようにしています。また、発表時に多様な意見が出るよう、各グループで出した意見を机間指導で把握して、発言者を意図的に指名しています。

安田 授業の最後により組織をつくるための方法を問いかけた際には、授業冒頭に伝えた「組織には目標(企業理念)が必要」という前提を改めて確認できるとよかったです。自分の組織の悩みだけを考え、「組織の目標を達成するためにはどうしたらよいか」に目を向けられていない生徒が少なからずいました。

吉田 大前提に立ち戻り、様々な意見を聞いて拡散していた思考に軸を持たせる必要がありますが、授業の終了時刻が迫っていたため、割り愛してしまいました。重要事項は意識的に繰り返して伝えるなど、構造的に授業をデザインできるようにしていきたいです。